

京王グループの環境保全活動

京王グループでは、自然と共生する社会づくりをめざして、地域の皆様やお客様とともに環境保全活動に取り組んでいます。

高尾山では、2002年から日本山岳会「高尾の森づくりの会」が行う森林再生活動を支援しており、2016年に開催された育樹祭では、社員も参加して「ヒノキの若い林」に入り育樹（間伐）を行いました。また、2013年からは周辺の小学校と連携して植樹する苗木を育てる「種子から育てる苗木プロジェクト」に取り組みました。毎年春には「高尾の森親子森林体験スクール」を実施しています。

1991年からは沿線地域の環境保全を目的に、多摩川と高尾山で清掃活動「京王クリーンキャンペーン」を開催しており、2013年からは多摩川へ稚鮎累計約3,000匹の放流も行いました。

なお、詳しくは「安全・社会・環境報告書 CSRレポート」をご覧ください。（京王ホームページでの閲覧または冊子を同ホームページから無料でお取り寄せいただけます。）



自然と共生する社会づくりをめざして

高山市



「わたくしたちは乗鞍のふもと 山も水もうつくしい飛騨高山の市民です」

高山市民憲章は、この一文から始まります。高山市にとって大切な財産であり、象徴でもある「乗鞍岳」ですが、セイウタンポボなどの外来種の繁殖がみられます。貴重な高山植物の生態系を守るため、行政機関や観光事業者などで組織する「乗鞍美化の会」では、ボランティアを募り、毎年外来植物の除去活動を実施しています。

関係者が各々の立場で協力しあい、市民・事業者・行政が一体となった活動をこれからも続けていきます。

飛騨市

かつては漬物用の野菜を洗えるほどきれいな流れであった瀬戸川は、高度成長期頃より生活雑排水等による汚染が進みました。1968年、美しい流れを取り戻したいとの願いから、各種団体等の寄付により200匹余の鯉が放流され、現在では1,000匹を超える鯉が観光客の目を楽しませています。

瀬戸川を流雪溝として利用する冬期間、鯉は増島城址の堀池で越冬し、春に再び川へ戻ります。住民による鯉の引越し作業は季節の風物詩となっています。沿線住民により「瀬戸川愛沿う会」

が組織され、日常的に川のゴミ上げ作業が行われるなど、環境美化に対する意識が継承されています。



下呂市



下呂市萩原町では毎年5月30日のゴミの日に合わせて各地で環境美化活動を地域（自治会）が主体となって行っています。一級河川木曾川水系の飛騨川を挟んだ各22地区の住民約2,000人が、地域の宝である森と清流を中心とした美しいまちを次の世代に引き継ぐことを目的として、地域のゴミ拾いをはじめ、堤防の草刈りや公共施設の清掃、また、地域の景観を支える大切な農業用施設（農地、水路、農道等）の重点的な維持管理活動も同日に行っています。近年では特定外来生物であるオオキンケイギクの繁殖を抑えるために防除活動を行っている地区もあります。

「里地里山を歩こう」を見て散策されたご感想を募集しています。ご応募いただいた方には、京王オリジナルグッズを差し上げます。

※京王オリジナルグッズの発送は、2017年8月31日（郵便ハガキの場合は当日消印、ホームページの場合は当日のご登録）のご応募までとさせていただきます。

感想をお寄せください。応募方法 郵便ハガキにご感想、郵便番号、住所、氏名（フリガナ）、年齢、性別、電話番号を明記のうえ、〒206-8502 多摩市関戸1-9-1 京王電鉄広報部「里地里山を歩こう」係までお送りください。京王ホームページ（www.keio.co.jp/）からもご応募（4月から）いただけます。

里地里山を歩こう

発行/京王電鉄株式会社 広報部 〒206-8502 東京都多摩市関戸1-9-1
協力/高山市丹生川支所地域振興課 飛騨市商工観光部観光課 下呂市観光商工部観光課 濃飛乗合自動車株式会社



多摩丘陵に残る懐かしい風景を訪ねる

京王沿線
5
COURSE

里地里山の風景と自然を訪ねて

里地里山を歩こう

飛騨地方
3
COURSE



飛騨地方とのタイアップ企画

飛騨の里地を訪ねる3コースを掲載



KEIO

あなたと あたらしい あしたへ — 京王グループ



1 稲城中央公園下の棚田(稲城市坂浜) 2 小野路給水所付近の谷戸の眺望(町田市小野路町) 3 奈良ばい谷戸(町田市小野路町) 4 百草地区の集落(日野市百草) 5 金刀比羅宮からの眺望(相模原市緑区)

京王沿線の里地里山

里地里山へのご招待

自然と歴史と懐かしい暮らしの風景にも出会える

里地里山とは都市と奥山の中間に位置し、集落とそれを取り巻く農地や雑木林などで構成される地域を言います。人びとはそこで畑や谷戸(丘陵地が侵食されてできた谷状の地形)の田んぼを耕し、雑木林から薪や炭、肥料の落ち葉などを得て暮らしてきました。里地里山はかつては全国どこにでも見られた、いわば私たちの暮らしの原風景ともいえるところです。そこは

また、たくさんの動植物のすみかでもありました。その里地里山は都市化とともに、あるいは過疎化とともに減少しています。ここでは、そんな中で奇跡のように残る京王沿線の多摩丘陵の里地里山を紹介します。また今回は、京王沿線からも高速バスを利用して訪ねることができる岐阜県飛騨地方を紹介します。今もいきいきと息づく

飛騨地方の里地里山をお楽しみください。そこには地域的な違いはあるものの、いずれも豊かな緑が広がり、歴史を伝える史跡があり、貴重な動植物に出会い、自然と共生していたかつての生活もうかがい知ることができます。ぜひ、多摩と飛騨地方の里地里山を歩いてその素晴らしさに触れてみませんか。

飛騨地方の里地里山



6 河岸の農道(丹生川コース) 7 稲わらの天日干し(国府・古川コース) 8 水路沿いの自然歩道(萩原・上呂コース)

本冊子のご利用にあたって

- 行程の距離数は赤線で示したルートをたどった場合です。目安としてください。
- 行程の初級・中級・上級については、以下のような目安のもとに表記しています。
初級 ★ ゆるやかな坂や多少の階段あり
中級 ★★ 少しきつめの坂や長めの階段あり
上級 ★★★ かなり勾配のある坂や長い階段あり
- コースを2度に分けて歩いたり途中で中止する場合にそなえて、①で途中から最寄駅への交通を表記しています。体力にあわせて無理なく歩きましょう。
- ルートに沿って利用できる公共トイレ🚻を表記していますが、トイレが少ないコースもありますので気をつけましょう。

本冊子で紹介するコースは、公園、農地沿い、集落や住宅地の中の公道であり、私有地は含みません。付近には私有地がありますので、以下の事項を必ず守り、感謝の気持ちで歩くようにしましょう。

ルールやマナーを守って歩きましょう!



私有地に立ち入らない

田んぼや畑、庭などの私有地に無断で入らないでください。



動植物を大切に

昆虫、花実、農作物を傷つけたり、持ち帰ったりしないでください。鳥や動物は脅かしたり、餌をやったりしないでください。



交通ルール・社会ルール・歩行マナーを守る

道幅いっぱいには歩かない、住宅地は静かに歩く、人と会ったらあいさつを交わす、タバコは決められた所定の喫煙場所を利用する、吸い殻・ゴミは持ち帰るなど、地域の方に迷惑のかからないようにしましょう。



ウォーキングに適した服装・装備を選ぶ

持ち物はデイバックなどを活用し、手には何も持たないようにしましょう。靴はウォーキングシューズ、上級コースではトレッキングシューズをおすすめします。夏場は、できるだけ直射日光を避けて、こまめな水分補給を行い、蜂やマムシなどに注意し、無理のないように歩きましょう。

ウォーキング中の事故・怪我・トラブルについては、当社は一切責任を負いません。

※本冊子は2017年1月時点の情報です。環境の変化により状況が異なる場合があります。

※コースは日中に家族、友人など少人数で歩くことを想定しています。
※各コースには、途中でご利用いただける駅・バス停を掲載していますので、事前に運賃や時刻などの情報をご確認ください。また、必要に応じてタクシーをご利用ください(配車に時間を要する場合があります)。

1 若葉台・稲城コース

★ 初級 行程: 約8.8km



京王相模原線は、稲城駅から若葉台駅までの間、北側に広がる向陽台や若葉台などのニュータウンを見ながら丘陵の山裾を走ります。線路に沿うように三沢川が流れ、鶴川街道も並走しています。この南と北の丘陵には、畑、谷戸田や雑木林があちこちに残っています。南側には昭和50年代前半に整備された黒川東営農団地、薄葉谷戸、南山西部の里山と雑木林、北側にはホテルも観賞できる上谷戸親水公園のせせらぎ、稲城中央公園の雑木林…

このコースは、京王相模原線を縫うように南と北の丘陵に残る里地里山の風景を訪ねます。若葉台駅のホームの東端に立って南を望むと、丘陵の斜面に農地が広がっているのを見て取ることができます。黒川東営農団地です。まずは、そこを目指します。

南北の丘陵に残る里地里山の名残をたどって
 若葉台から稲城へ



2 3 黒川東営農団地
 昭和50年代前半に完成したこの営農団地は約18ha(東京ドーム4個分)。野菜のほかナシやカキ、クリなどもつくられている。眺望が素晴らしく富士山も望める。



4 学園通り脇の田んぼ
 営農団地を下り京王相模原線をくぐると左手に田畑が広がり、学園通りが出る。このあたりは谷戸地形で水田が続く。



5 若葉台のケヤキ並木
 若葉台駅の北側にはニュータウンが広がる。鶴川街道を渡り、若葉台公園入口信号までケヤキ並木を行く。



6 若葉台公園
 芝生がのびやかに広がり、とくに円形の花の段々広場は魅力的。その広場の下にこれから行く上谷戸がのびる。



1 下村橋先のナシ畑
 若葉台駅南の交差点先約50mを左折し、三沢川を渡ると右手にナシ畑がある。黒川東営農団地は左手の竹林の先を上る。



9 水車小屋と上谷戸大橋
 上谷戸親水公園の最下流部。このあたりには小型のハヤブサ類のチョウゲンボウが棲み、いつもカメラを携えた愛鳥家の姿がある。



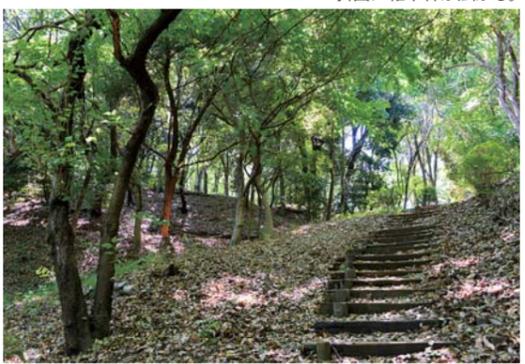
7 上谷戸の田んぼ
 せせらぎを中心に心地よい親水空間が続く。ここでは地元の人々の手でホテルが飼育され、毎年6月初旬頃に観賞会が催される。



13 三沢川
 鶴川街道を右折して三沢川を渡る。その先に京王相模原線のガードがあり、それをくぐると薄葉谷戸。



12 公園下の棚田
 公園の雑木林を下ると東側に棚田があり一番下の園路から眺められる。棚田の下は鶴川街道である。



10 長峰小学校南交差点下の畑
 上谷戸通りが鶴川街道と交わる手前で左へ道を取り、北へ上る。右手に畑を見て上り切るとこの光景が広がる。



19 妙見寺
 妙見宮から石段を下ったところにあるのが妙見寺で、今では全国でも珍しい神仏混淆(しんぶつこんごう)の寺院。参道から京王相模原線をくぐり右へ行くと稲城駅である。



17 雑木林の道
 畑の東側には雑木林が続く。二股道を左へ上がり雑木林を進み、山中の畑の手前を左へ下り、さらに畑の中の道を進む。



15 旧水路脇の道
 薄葉谷戸から戻り三沢川の右岸を下る。旧水路に出会ったら水田との間の道を行き、京王相模原線をくぐり南山を目指す。

14 薄葉谷戸
 谷戸入口の水田はすぐに途切れるが、道なりに進むと再び田畑が現れる。今も農業が営まれ、昔ながらの谷戸風景が残る。



Study
稲城とナシ
 このコースでは、何度かナシ畑を目にする。稲城市では江戸時代からナシがつくられ、現在も都内のナシ栽培の約4割を占め都内の第1位である。栽培の中心は稲城駅の東から多摩川にかけてで、京王相模原線の車窓にもナシ畑が広がる。ちなみに、稲城市はブドウ栽培でも都内第1位で東京のフルーツタウンでもある。

18 妙見宮境内からの眺望
 雑木林の道を下ると妙見宮に入る。妙見宮は毎年8月7日にカヤで100~150mの大蛇をよる「蛇より行事」で知られる。境内からは新宿副都心が望める。

16 南山西部の里山
 稲城駅の南側に連なる山は南山と呼ばれる丘陵の西部にあたる。急な坂道を上ると左手に雑木林を背景に懐かしい里山風景が広がり眺望も素晴らしい。

2 よこやまの道・谷戸めぐりコース

★★ 中級 行程: 約7.8km



20 恵泉女学園大学教育農場
 笠松谷戸が再び広がったところこの農場と一般の農地が広がる。そこから坂道を越えると妙桜寺があり、バス停までは400mほど。

19 妙桜寺への分岐路
 再び分岐路に出会うので小屋の前を通る左の道へ。谷戸はいったん狭まるがまた広がる。



18 笠松谷戸
 分岐路からの道は右手に曲がったあと、畑の脇にしばらく真っ直ぐ続く。ここは大犬久保谷戸と枝分かれた笠松谷戸。

17 左小野路宿、右妙桜寺へ
 布田道を進むと民家が途切れたあたりで分岐路があり、ここで布田道と別れ案内板の妙桜寺方向(右)へ。



若葉台駅の西北西の高台に丘の上広場という小さな広場があります。ここは多摩ニュータウン開発の際に、尾根筋に整備された「多摩よこやまの道」の東端。全長約10kmにわたるこの道は、途中何本もの古道跡と出会う歴史を秘めた散策路です。そして、その南側には川崎市の黒川地区と町田市の小野路・小山田地区の里山風景が広がっています。

このコースは、多摩よこやまの道を「防人見返りの峠」の先までたどったあと尾根を下り、黒川と小野路の谷戸をめぐります。今も田畑がつくられている黒川と小野路の谷戸は多摩丘陵の中でもかつての風景をとどめるところ。丘陵には大小何本もの谷戸が複雑に入り込み、小さな尾根を越えるたびに別の谷戸があらわれます。そこには水路が流れ、田んぼや畑の広がる懐かしい風景が展開しています。トイレは、コース中の**5**にあります。

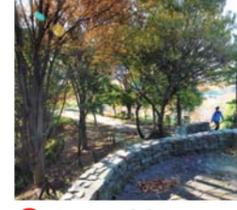
多摩よこやまの道から 黒川と小野路の 懐かしい谷戸風景をめぐる



14 鎌倉街道別所へ下る道
 給水所管理棟の前で右に道を取る。畑や雑木林、竹林を抜けると斜面に畑があり、道なりに下ると鎌倉街道の別所交差点に出る。



15 富士山を眺めて布田道を別所へ
 給水所管理棟の前の道を270mほど直進すると小野路ヶ丘住宅という一角がある。ここから右(西)に下ると晴れた日には富士山が望める。この道は新選組の近藤勇が調布から小野路宿へ通った布田道で、彼も富士山を目にしたであろう。そのまま里山風景を進めば鎌倉街道の別所交差点へ至る。



1 丘の上広場
 多摩よこやまの道はここから尾根筋の雑木林を西へのびる。石垣上の広場は眺望がよく、4月上旬頃にはサクラ、11月半ばには紅葉に彩られる。



2 根株移植の森
 途中さくらの広場をへて根株移植の森を進む。伐採した樹木の根株を掘り取って移植し、若返りをはかった雑木林である。



3 山上の畑(貸し農園)
 古道の瓜生黒川往還が横断していた先で尾根の平坦部を利用した畑に出会う。



4 防人見返りの峠
 このあたりに古代東海道が走り、九州へ向かう防人たちが故郷を振り返ったであろうといわれる峠。富士山や秩父連山まで一望できる。



6 7 黒川の谷戸(入り谷戸)
 雑木林を下ると谷戸奥に出る。水路沿いの道路脇には田んぼや畑が徐々に広がり、のどかな風景が展開する。途中左手にリンゴ畑もある。



5 分倍河原合戦前夜の野営地付近
 分倍河原合戦(元弘3(1333)年)前夜、鎌倉幕府軍が一夜を明かしたと伝わるのがこのあたり。黒川の谷戸へはこの手前で左(南)に下る。



10 明治大学黒川農場入口
 農場の入口は2つの谷戸が枝分かれするところにあり、ここから農場を取り巻いてゆるやかに上る道を進む。



8 毘沙門堂
 階段を上ると鳥居と石仏があり、毘沙門天を祀った小堂がある。廃寺となった金剛寺の跡だという。



11 明治大学黒川農場裏の道
 雑木林の道は右手に農場、左手に変電所や谷戸を見て、分岐路を左折すると右手に国士館大学の陸上競技場を過ぎて谷戸へ下る。



12 国士館大学陸上競技場下の谷戸
 この谷戸は小野路に位置する。畑の中の道を抜けて四辻を左に折れ、再び尾根筋に上って行く。



9 地神塔
 地神塔は豊作を祈って大地や天候の神を祀ったもの。いずれも江戸時代に建てられている。



13 小野路給水所手前から谷戸を眺める
 尾根筋のT字路は左へ進むが、そのT字路右手に眼下に谷戸を一望できる場所がある。この谷戸は鎌倉街道へ続いている。

3 小山田緑地・奈良ばい谷戸コース

★ 初級 行程：約7.0km



1 扇橋バス停から小山田緑地へ
バス停先の信号からの道は田んぼを左手に見て西へ。まもなく道はカーブし、今度は右手に田んぼを見て道なりに進むと小山田緑地入口に至る。

3 みはらし広場

小山田の牧の遺構といわれるこの広場からの眺めは絶景。連なる丘陵の向こうに丹沢山系と晴れた日には富士山が望める。



2 小山田緑地運動広場(小山田の牧)

サービスセンターから道を上ると運動広場の原っぱに出る。このあたりは中世に小山田氏の牧場があったと伝わる。



4 小山田の谷

小野球場から雑木林を越えて小山田の谷に下りる。細長い谷戸にかつては田んぼに引かれた溜池、上池、下池、調整池が連なる。



5 6 奈良ばい谷戸

小山田緑地の駐車場の向かいに道路を挟んで広がる。この谷戸は10年ほど前まではカヤに覆われていたがボランティアにより再生され、今は田んぼや畑の里山風景が広がる。



雑木林の丘陵と谷戸がおりなす里山は、もともと農家の生業の場でした。谷戸とは丘陵から流れ出る清流によって浸食されてきた谷状の地形のこと。人びとは谷戸を田んぼとし緩斜面に畑を耕し、雑木林で薪を切り炭を焼き、落ち葉を田畑の肥料として暮らしてきました。しかし1960年代以降、石油燃料や化学肥料が普及し、また生活の変化もあり里山は放棄されてゆきます。

そんななか多摩丘陵でかつての里山風景を最もよくとどめるのが、町田市北部の小山田地区や函師・小野路地区です。この雑木林や谷戸も一度は荒れていましたが、現在は地域の人やボランティアによって再生がなされ、あるいは里山公園として管理されていることで、いわば東京の里山の原風景ともいえる景観や動植物に出会うことができます。

小山田緑地と東京に残る里山の原風景、奈良ばい谷戸を訪ねて



16 一本杉公園

陶芸教室前の入口から一本杉公園へ(開門8:00~17:00)。ここは公園南側部分で池や雑木林と2棟の古民家がある。



17 一本杉球場先

道路の下をくぐると公園の北側部分。この石柱のモニュメント先で尾根幹線道路へ下り左へ進み、交差点を渡るとゴールである。



15 バラ農園入口先の道

バラ農園入口のところを左手に行くと竹林や雑木林が続く。道がえぐれ切通しのような野田気のところもある。



8 斜面の畑(貸し農園)

斜面に広がる山の畑は小さく区画された貸し農園。さまざまな野菜がとられている。



10 萩生田牧場下

斜面には懐かしい農村風景が見られる。この道を下って道に突き当たったら引き返すように右に折れる。



9 萩生田牧場

丘の上に牛舎があり牛の姿も見える。付近は下に畑が広がり眺めもよい。



11 六地藏

雑木林の道端にひっそりと佇む。六地藏はもともとお地蔵様が6つの世界(六道)の人びとを救うという信仰にもとづく。



14 地蔵祠下の谷戸

小野路の町を右折して進むとお稲荷さんがおり分岐路に至る。右手に関屋の切通し(布田道)があり、左手に谷戸が広がりその先に地蔵祠がある。

Study 新選組と小野路宿

小野路宿は新選組ゆかりの地でもある。資料館になっている江戸時代の名主小島家には天然理心流の出稽古場があり、幕末の当主の日記によると近藤勇が36回、土方歳三が11回、沖田総司が12回剣術指南に訪れている。彼らはその後、京都に上り新選組を名のることになる。資料館では近藤勇の稽古着や肖像画、手紙をはじめ数々の資料が目に見える。



13 小島資料館

古くからの宿場であった小野路は街並にその面影を残し、特に小島家は立派な門塀が屋敷を囲み歴史をしのばせる。ここは資料館として新選組資料や地域資料を展示する。
●開館：毎月第1・第3日曜13:00~17:00、冬季(1~2月)休館 ●入館料600円、小学生300円

12 小野路宿里山交流館

江戸時代に小野路宿にあった旅籠を改修した町田市の施設。食事ができ散策コースやバス時刻などの情報も得られる。 ●営業9:00~17:00



4 百草・万蔵院台コース

★ 初級 行程: 約6.0km



3 百草の集落へ
分岐路の下はゆるやかな下り斜面。道路に沿って水路が流れ民家が点在する。なぜか郷愁を誘う、東京とは思えない光景である。

2 丘陵上の分岐路
大宮神社下から住宅を抜け、階段道を上り切ると分岐路がある。写真の雑木林に入る百草園方向には行かず直進する。



1 大宮神社
百草園駅から川崎街道を渡るとすぐに鳥居が見える。社殿は丘陵の中腹にあり、急な石段を約100段上る。



4 モグサファーム
ホルスタインの模様を描いた道端の建物は牛舎。乳牛が飼われ、道路からの見学はOK。搾り立ての牛乳を使ったジェラートが直営店で味わえる。



5 六地藏
モグサファーム先の交差点を右へ行き、道なりに坂道を上った丘の上に佇む。この道は百草八幡神社の参道であり、そばに庚申塔と道祖神も立つ。



7 京王百草園
江戸近郊の名所として文人墨客にも愛された趣のある庭園。約50種500本の梅に加え四季折々に花が咲き、秋の紅葉も美しい。
●開園 9:00~17:00 (11・12月は16:30まで)、水曜(祝日の場合は翌日)・年末年始休園
●入園料 300円、小人 100円

8 百草八幡神社
創建は不明だが、社内の狛犬には天平の文字が刻まれているという。境内から百草園の裏手にかけてシノキが群生し、特に社殿の裏の巨木は見事。



6 六地藏先の畑
六地藏が立つのは丘陵の尾根部で、その西側一帯には斜面も含めて畑が続きのどかな風景が広がっている。



9 百草観音堂
武相四十八観音の第九番札所。高台の境内には平安時代から江戸時代までの仏教彫刻群が安置されている。

10 南百草バス停先のミカン畑
観音堂の南、水路が流れる道路のバス停先左手に、東京では珍しいミカン畑が見られる。



Study 東京のミカンとリンゴ
ナシやブドウよりくんと少ないが、都内でもミカンやリンゴがつかられている。どちらもコース途中で出会うが、都内のミカン栽培の中心は狭山丘陵(武蔵村山市、瑞穂町)。一方、リンゴは八王子市恩方地区に多かったがほとんどがブルーベリー園に変わり、現在は5戸が栽培する万蔵院台(日野市)の方が多い。品種は「陽光」「ふじ」が中心。

丘陵に抱かれた懐かしい里の集落から
リンゴ畑もある農の台地へ

京王線は聖蹟桜ヶ丘駅を出るとまもなく左手に丘陵を間近に見て、次の百草園駅に至ります。この丘陵は多摩川と大栗川に挟まれた七生丘陵の東端にあたり、尾根と谷戸が複雑に連なっています。日野市の東の端に位置するこの地域は百草・倉沢地区と呼ばれ、周囲が住宅街になった中で奇跡のように里山の風情を残しています。

百草園駅を出て大宮神社の先から階段道を上り尾根を越えると、乳牛を飼う牛舎があり、反対の尾根に上がると六地藏が佇み、そこから西へ行くと京王百草園と百草八幡神社があります。神社から南に下ると倉沢地区。ここには万蔵院台と呼ばれる小高い台地があり、一面に農地が広がりブルーベリー畑や都内では数少ないリンゴ畑もあります。

このコースは、尾根が現在と過去の境であるかのように、そこに百草地区の懐かしい集落が広がっています。トイレは、入園有料の京王百草園内にあります。



15 啓光学園手前の竹林
倉沢川緑地からは左手に雑木林を見ながら山裾の道を野狼街道まで。途中、啓光学園の手前で竹林に出会う。



11 12 万蔵院台
約4haの高台に農地が広がり、野菜のほかにリンゴやブルーベリーが栽培されもぎ取りや摘み取りが楽しめる。万蔵院の名は修験の寺があったことに由来。

14 大栗川
倉沢川緑地の東端を右へ行くと大栗川が流れる。川岸の道を下流に行くと約1.7kmで聖蹟桜ヶ丘駅に出ることもできる。

13 倉沢の田んぼ
万蔵院台を下りミカン畑から続く道に戻る。このあたりは倉沢といい、道端に畑があり少し行くと田んぼもある。



18 真照寺
約千年前の開基と伝わる古刹。山門は元禄15年(1702)の建立で、その門の先には六地藏が立つ。寺から百草園駅までは300mほどである。



17 アルティジャーノ・ジェラテリア
モグサファーム直営のイタリアンジェラートの店。新鮮な自家製生乳と主に地元産の野菜や果物を使ったジェラートが味わえる。
●営業 11:00~18:00、木曜定休



5 城山湖・草戸峠コース

★★★ 上級 行程: 約8.5km



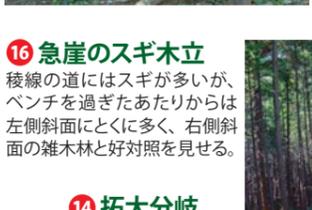
18 高尾山口駅
高尾山口駅は日本を代表する建築家の隈研吾氏のデザイン。また、駅前には京王高尾山温泉/極楽湯があり、ハイキングの疲れを癒すのに絶好。



15 ベンチ手前の道
拓大分岐から鉄塔と廃鉄塔を過ぎ、急坂を上り下りし、ヤマザクラの大木をくぐるように過ぎた先の稜線。途中ハイカーには何人も出会う。



17 四辻
ここで道は3本に分岐する。左へ下ると350mほどで高尾山参道口へ。ほかの2本は高尾駅へ下る道である。



16 急崖のスギ木立
稜線の道にはスギが多いが、ベンチを過ぎたあたりからは左側斜面にとくに多く、右側斜面の雑木林と好対照を見せる。



14 拓大分岐
右手に有刺鉄線のフェンスを見てしばらく行くと写真の道標があり、ここが拓大分岐。高尾駅・四辻(高尾山口駅)方向へ進む。



13 梅ノ木平への分岐
草戸峠から150mほど、左右に大きなモミノキが数本立ちこの分岐路がある。大きなモミノキは境界木だという。



梅ノ木平へ下って高尾山口駅へ
別ルート
「梅ノ木平へ」の道標にそって360mほど下ると、沢沿いの道路へ出る。北へ向かい老人ホームを過ぎると畑があり、懐石料理「うかい竹亭」の先にも畑があり里山風の雰囲気味わえる。ここから川岸を進むと甲州街道で、右へ行くと高尾山口駅へ至る。沢に下りたところから駅まではずっとゆるい下りで約2.6kmある。



11 松見平休憩所
ダム湖と橋本の街を眺めるこの休憩所の先は、城山湖散策路と分かれて草戸山から高尾山口駅へ、稜線のハイキングコースとなる。



9 城山湖
湖岸一周の城山湖散策路があり、金刀比羅宮の先はこの道を行く(散策路の開門 9:00~17:00、10~3月は16:00まで)。



10 はなさき休憩所先
ダム堤防からの城山湖散策路はアップダウンがある。なかでも、はなさき休憩所先の階段は行程中一番長い上りである。



かつて里山だった雑木林に囲まれた法政大学多摩キャンパスの南側。ここに境川支流の穴川が流れ、田畑の広がる谷戸が丘陵に入り込んでいます。この谷戸は初夏の6月下旬にホタルが舞うことでも知られ、谷戸奥からは穴川林道がのび城山湖へと続いています。城山湖は本沢ダムのダム湖。湖面が見え隠れする散策路を草戸山(標高365m)の松見平休憩所へ向かい、そこから北上し草戸峠をへて東高尾の稜線をたどり高尾山口駅へ下ります。

コース後半の城山湖から東高尾の稜線は、ハイキングに人気のコース。かなりのアップダウンがありますので、トレッキングシューズの着用をおすすめします。また、トイレは城山湖コミュニティ広場にあります。

ホタルのすむ穴川の谷戸から城山湖をへて東高尾の稜線をたどる



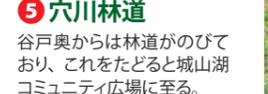
7 8 金刀比羅宮と境内からの眺望
文化元(1804)年に四国の金刀比羅宮の分霊を奉遷したという由緒を持つ。眺望がよく、橋本の街や天気次第で横浜、六本木、新宿なども望める。



6 本沢梅園
城山湖コミュニティ広場の南東側斜面に広がる梅の名所。見頃の2月中旬~3月中旬にかけて大勢の梅見客で賑わう。



5 穴川林道
谷戸奥からは林道がのびており、これをたどると城山湖コミュニティ広場に至る。



4 城山自然ふれあい水路(ほたるの里)
穴川の岸にこの案内板があり奥に水路がめぐらされている。ここには野生のホタルが生息し、6月下旬頃に観賞できる。



1 町田街道へ下る道
法政大学バス停からは町田街道へゆるやかな下り坂。4月上旬頃はサクラに彩られる。町田街道を越え、境川を渡った先で左へ。



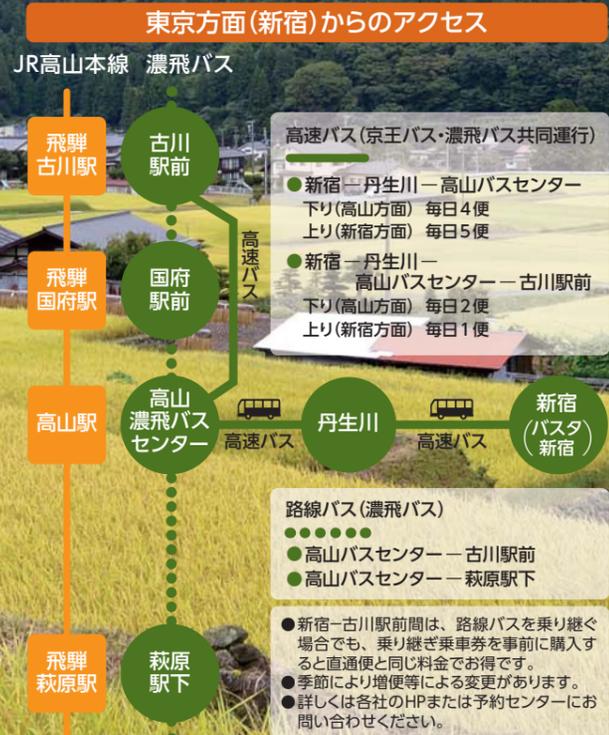
2 明観寺
一般道を真っ直ぐに進むと右手に真言宗のこのお寺があり、本堂前に大きなサクラの木が数本立っている。



飛驒の里地で 農と歴史の 息づかいを感じる

飛驒といえば、高山や古川の豪壮な城下町を思い浮かべる方が多いでしょう。もちろんそれも見どころですが、街の周囲に広がる、美しい田園風景も見逃せません。アルプスから流れ出る清流を引いた田んぼ、盆地や谷あいの地形を生かした棚田。山並みを仰ぎみる田んぼ道を行けば、連綿と受け継がれてきた農の営みと出会えます。

紹介するのは、高山市、飛驒市、下呂市の里地里山を歩く3コース。のどかな田園を歩きながら、その地の特徴的な歴史を感じられるスポットにも立ち寄ります。



京王高速バス予約センター
[9:00~20:00/年中無休]
☎ 03-5376-2222

濃飛バス予約センター
[9:00~18:00/年中無休]
☎ 0577-32-1688

www.highwaybus.com ハイウェイバスタードットコム 検索

飛驒地方の情報を発信中!!
中部地方インフォメーションプラザin京王新宿

京王新宿駅 地下1F 京王モール内
営業時間 10:00~19:00
電話番号 03-5990-5115
http://www.keiainfoplaza.jp

6 ★ 初級 丹生川コース

花の香りに誘われて乗鞍を望む溪流沿いの里地を行く → P.18

- エリア内での移動/濃飛バス新穂高線を利用。日中は1時間に1本程度運行しており、ゴールの「町方」バス停(路線バス)から「高山濃飛バスセンター」まで約20分。
- 濃飛バス時刻表/QRコードを読み取って、濃飛バスのホームページをご覧ください。
- 山都タクシー/☎ 0577-32-2323
- 新興タクシー/☎ 0577-32-1700
- はとタクシー/☎ 0577-32-0246
- 高山タクシー/☎ 0577-37-2599
- 宮川タクシー/☎ 0577-36-3860



7 ★ 初級 国府・古川コース

悠久の歴史を湛える田園と町並みを歩く → P.20

- エリア内での移動/濃飛バス神岡・古川線を利用。日中は1時間に1~2本程度運行しており、ゴールの「古川駅前」バス停から「国府駅前」バス停まで約15分。
- 濃飛バス時刻表/QRコードを読み取って、濃飛バスのホームページをご覧ください。
- 宮川タクシー古川営業所/☎ 0577-73-2321



8 ★★★ 上級 萩原・上呂コース

飛驒街道の歴史と棚田の憧憬が綾なす谷間の里 → P.22

- エリア内での移動/濃飛バス下呂線を利用。日中は1時間に1本程度運行しており、折り返し地点の「上呂橋場」バス停から「萩原駅下」バス停まで約8分。
- 濃飛バス時刻表/QRコードを読み取って、濃飛バスのホームページをご覧ください。
- ヒダタクシー萩原営業所/☎ 0576-52-4404
- 下呂名鉄タクシー萩原営業所/☎ 0576-52-1067



飛驒の里地里山を歩く3コース!



飛騨山脈の水を集めて高山・飛騨へと流れる小八賀川沿いに広がる丹生川の集落。溪流が形作った河岸段丘が、階段状のユニークな地形を生み出し、段丘面には穏やかな田園風景が広がっています。稲作のほか、野菜栽培や畜産も盛んで、高山市内の食卓を支えています。

このコースは、高山市丹生川支所を起点に、もっとも川に近い段丘面の農道、田んぼ道をたどって、荒川家住宅で折り返し、川の兩岸を進みます。ルートはほぼ平坦な舗装路で、田園風景に包まれながら楽しく歩けます。逆回りのコースは疲れた時のバス利用が便利です。

花の香りに誘われて
乗鞍を望む
溪流沿いの里地に行く



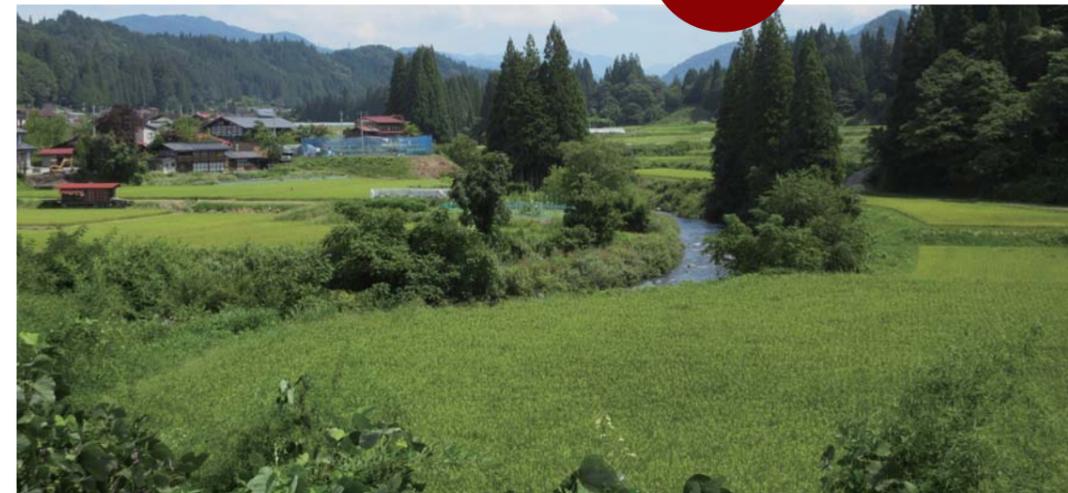
1 河岸の農道

今井橋へ向かう坂を下り、右手に田んぼが見えたら脇道の農道に入る。アスファルト舗装で歩きやすい。



2 土手のフクジュソウ

春先、土手一面に黄色いフクジュソウが花をつける。数種が混在しており、4月末まで鑑賞できる。



4 二里杭

高山より二里を示す道標。享保年間に建てられた。ここでいったん国道158号を離れ、田の間を進む。

5 鎮守の森(丹生川神社御旅所)

田園の中に木立が現れ、分け入ると小公園がある。日差しを避けながら一休みにちょうどよい。水道もある。



3 小八賀川と田んぼ

小高い場所から小八賀川と兩岸の田んぼを見渡し、乗鞍岳も望める絶景。田植え、実りの時期の彩りも楽しい。



6 石仏群

丹生川地域は石仏の宝庫。江戸中期から昭和にかけて安置された道祖神や庚申、馬頭観音、地藏などが次々と現れる。



7 農道

右に国道158号を見ながら農道を進む。このあたりまでくると、田畑は少なくなり、茂みが濃くなる。



8 荒川家住宅

飛騨匠の技を偲ぶ重要文化財の旧家。江戸中期の民具や伊達政宗の書状なども所蔵展示する。
●開館(6~9月)8:30~16:30、(4~5月・10~11月)9:00~16:00
●水曜日休館
●入館無料

9 飛騨随一のパワースポット(?) 日輪神社

荒川家住宅からさらに国道を東へ500mほど進むと見えてくる大きな鳥居が日輪神社。大和朝廷以前の古代文明の遺構とも言われ、パワースポット詣でに訪れる人も多い。苔むす石段や木の間から落ちる木漏れ日は、歩いていて心地よい。



15 正宗寺

シャクヤクの花寺として知られ、5~6月の開花時は大勢の人で賑わう。飛騨三十三観音霊場の一つ。



16 乗鞍

ファーマーズマーケット

地元産の朝採れ野菜や果物が並ぶ。丹生川の名産の「トマト」のジュースや宿儺かぼちゃが人気。



14 田んぼ道

のどかな田園風景が続く。南岸に渡る橋があるので、疲れたらここから国道へ登り、坊方からバスでゴールへ。



12 田んぼ道

芍薬街道から外れて田んぼ道に入ってもいい。川の流れに沿ってカーブしており、歩を進めるごとに景色が変化する。



13 熊野神社

合祀され社殿が残るのみだが、芍薬街道から山の中腹の拝殿まで石段が伸び、登ると田園風景がパノラマで見渡せる。

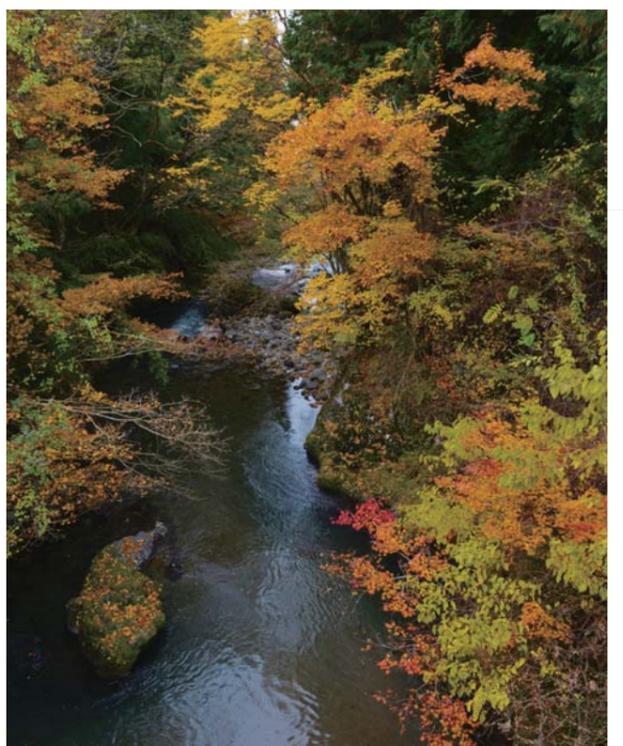
Study 芍薬街道

小八賀川北岸の山裾に延びる道は「芍薬街道」と呼ばれ、5月になると目にも鮮やかなシャクヤクの花が沿道を彩る。これは地域住民が協力して育てているもの。その他にも道沿いにはさまざまな花が植えられ、一年を通して目を楽しませてくれている。



10 小八賀川

季節にはイワナ釣り客の姿も見られる小八賀川。このあたりは溪が深い分、寒暖差も大きく紅葉の色づきもよい。





Study 13 天明の石垣



棚田を縁取る石垣は240年前、田沼意次で知られる江戸中期の天明期に積まれたもの。高いところでは2mを超える。大飢饉に際し、「口べらし」のため奥飛騨から出稼ぎにきた男衆を雇い入れて作らせたもので、いまも地域住民の手で大切に保存されている。

14 棚田

一帯に棚田を展望する。飛騨の山並みを背景にした、秋の豊かな実り、田植えの時期の薄緑色も美しく、豊かな営みが伺い知れる。

15 鎮守の森(白王神社)

田んぼの間を歩く先に現れるこんもりとした茂み。4月の例祭で奉納される獅子神楽は、町の無形民俗文化財。

16 杉の下のため池

文政年間(1818年)に造られたため池。アマゴが放流され、地元住民の手で保護されている。

17 宮谷の桜

萩原町は桜の名所も多い。なかでも宮谷の桜は、田んぼの水に映り込む花様が見事。季節にはライトアップされる。「はぎわら桜めぐり」のひとつ。



18 飛騨川公園

人道橋を左岸へ渡ると現れる広大な公園。春には芝生の広場を囲む桜並木が咲き乱れる。一休みした後、河原の遊歩道に沿って飛騨萩原駅を目指そう。



飛騨街道の歴史と
 棚田の憧憬が綾なす
 谷間の里

下呂温泉の北に位置する飛騨萩原は、古くから南飛騨の中心地として人々が行き交った飛騨街道の宿場町。飛騨川の谷間のわずかな土地を切り開いた棚田が連なり、ところどころに名刹が点在。暮らしの営みと文化が綾なす独特の風情があります。

このコースは、飛騨萩原駅を出発点に、古来より用水として使われた水路に沿った遊歩道を進み、上呂駅の先で飛騨川を渡り、田園地帯を抜けて飛騨萩原駅に戻るルート。全面舗装路で高低差の少ない道程ですが、距離がやや長め。疲れたら無理をせずバスを利用して起点に戻るとよいでしょう。逆

回りコースは、バス利用がより便利です。各バス停からは高山駅、下呂駅へも直行できます。



9 棚田

遊歩道から棚田を見渡すビュースポット。一段ごとに微妙に稲が彩りを変え、奥に飛騨川と右岸の田んぼを望む。

12 浅水橋(吊り橋)

奈良時代から吊り橋がかかっていたとされ、江戸時代には飛騨の四名所に数えられた。川沿いにせり出す民家の建ち方も興を引く。



8 久津八幡の夫婦杉

4世紀の創建とされる久津八幡宮。シンボルの夫婦杉は樹齢1200年以上といわれ、樹周り12mを超える巨木。

7 水の道(健康の道)

古えのころより水の流れの絶えぬ用水路沿いに整備されたなだらかな遊歩道。桜洞から上呂駅まで続く。全線が高台にあって眺望がすばらしい。



5 県神社

田畑の守り神が祀られる。境内の杉は、県指定天然記念物。周辺からは縄文遺跡が出土している。

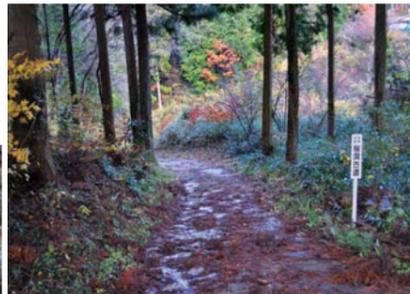
6 溪流

水量豊富な溪流。四季折々の彩りも美しい。溪流を越えたと下り坂になり、のどかな田畑が見えてくる。



4 御前水・桜洞古道

飛騨川左岸の山裾では、いたるところで湧き水に出会う。御前山の地層を経た御前水は水量も豊富でまろやかな味わい。



1 田んぼ

駅を出発したらJR高山本線沿いに進み、益田清風高校前の踏切を渡る。御前山を望みながら、ゆるい坂を登っていく。

2 県神社への道

飛騨川に注ぐ支流に沿って、ゆるやかに登る。まっすぐ進むと県神社と溪流があるが、1kmほど回り道になる。



3 御前水・桜洞古道への分かれ道

左手の茂みが分かれ奥に橋が見えるところで左折。さらに橋の手前で左に折れると、桜洞古道に入る。

